

200719002A

厚生労働科学研究費補助金

子ども家庭総合研究事業

保健師・保育士による発達障害児への早期発見・対応システムの開発

平成19年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 高田 哲

平成20（2008）年 3月

目 次

I. 総括研究報告書

保健師・保育士による発達障害児への早期発見・対応システムの開発

主任研究者 高田 哲 神戸大学医学部保健学科

(資料 4 か月児、1 歳 6 か月児、3 歳児 健康診査問診票)

II. 分担研究報告

1. 通常学級に所属する特別な支援を要する子どもの実態と乳幼児健診

主任研究者 高田 哲 神戸大学医学部保健学科

研究協力者 山口志麻 神戸市立垂水養護学校、神戸大学大学院医学系研究科

2. 個別発達支援モデル教室「ほっと」の運営

研究協力者 山根弘子 NPO法人「ほっと」代表

神戸大学総合人間研究科 子育て支援センター

主任研究者 高田 哲 神戸大学医学部保健学科

3. 発達支援モデル教室「ぽっとらっく」の運営

主任研究者 高田 哲 神戸大学医学部保健学科

研究協力者 松井学洋 神戸大学大学院医学系研究科

山本暁生 神戸大学大学院医学系研究科

4. 保健所における「サポートブック勉強会」について

主任研究者 神戸大学医学部保健学科 教授 高田哲

研究協力者 ひょうご発達障害者支援センター 相談支援員 橋本美恵

5. 保健師・保育士による発達障害児への早期発見・対応システムの開発

— 保健師の教育・研修システムの開発 —

分担研究者 松田宣子 神戸大学医学部保健学科

6. 導入に時間を要した 2 症例を通して支援と連携を考える

分担研究者 小寺澤敬子 姫路市総合福祉通園センター

7. 発達障害児への支援としてのプレイセラピーと心理士の役割

分担研究者 佐藤真子 甲南女子大学人間科学部

8. 発達に遅れを持つ子どもに対する早期発見システム開発に関する研究

—1歳6カ月健診における観察項目マニュアルブックレット作成の試み—

分担研究者 石岡由紀 神戸親和女子大学発達教育学部

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

IV. 研究成果の刊行物・別冊

I 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

総括研究報告書

保健師・保育士による発達障害児への早期発見・対応システムの開発

主任研究者 高田 哲 神戸大学 医学部保健学科 教授

研究要旨：発達障害のある子どもとその家族への早期対応において、保育士、保健師の果たす役割はきわめて大きい。しかし、保育士、保健師に対する教育、研修方法は確立しておらず、また相互間の連携システムも十分ではない。本研究の到達目標は（1）保健所の健康診断やフォローアップ健診で用いる実践的なスクリーニング法、行動評価法の開発。（2）保健師、保育士を対象とした教育研修システムの開発。（3）保育所における障害児と周囲の子ども達への指導法の開発。の3点である。

平成19年度は、神戸市東部（灘区）において発達支援教室を継続運営するとともに、西部（須磨区）にも新たな教室を開設し、システムの普遍性の検証を行った。さらに、（1）公立保育所における「発達が気になる子ども」の実態調査。（2）17年度に試作した行動観察用DVDの改良（音声説明を加えた再編集、異常行動に関する解説の追加）。（3）発達支援教室に対する評価とインターネットを用いた運営法の標準化。（4）2-4歳児を対象に実施した多職種によるグループ行動観察の最終評価と継続事例の検討。（5）乳幼児健診問診票、「サポートブック作り方・使い方ガイド」の作成（兵庫県、神戸市と協力）。を行った。神戸市では、平成20年度から新しく導入した乳幼児健診問診票を実際の乳幼児健診で使用開始する。さらに、通常学校に在籍し、学習上の問題を主訴として神戸市の学びの支援センターへ相談に訪れた285名の児童・生徒を対象に、1歳6ヶ月、3歳児健診での通過率を障害ごとに求めた。これらの研究の結果、（1）保育師は、通常保育の子どもたちの9.8%に発達上問題をもつと感じていること。（2）現行の乳幼児健診で診断が可能な発達障害は自閉症児であり、焦点を絞った健診システムが必要なこと。（3）発達支援教室は、家族間の交流、専門職者と家族との関係構築、具体的な支援方法の教育・開発に有用であること。が明らかとなった。発達支援教室事業は、今後も発達障害者地域自立支援事業の一環として継続することとなっているが、全国のどの地域でも展開可能なシステムにすることが課題である。

分担研究者

松田宣子（神戸大学医学部保健学科・地域看護講座 教授）、佐藤眞子（甲南女子大学人間科学部 教授）、小寺澤敬子（姫路市総合福祉通園センター 診療所長）、石岡由紀（神戸親和女子大学発達教育学部 助教授）

A. 研究目的

発達障害に対する理解が深まるにつれて早期診断・早期支援が子ども達の発達に及ぼす効果が明らかとなりつつある。広汎性発達障害の子どもたちは、「ことばの遅れ」などを乳幼児健診で指摘されることが多い。家族と専門家が協力して、早期からの支援体制を

整えれば、子どもたちの発達予後を改善できることが報告されている。発達障害のある子ども達への効率的な支援体制を築くことは、地域保健における重要課題の一つと考えられる。

地域での支援体制を築くには、医師、保健師、保育士などの専門家がチームを組み、効率的に役割分担することが重要である。私たちの研究班では、兵庫県、神戸市、姫路市などの自治体と協力して、実際にモデル事業を展開しながら、システム開発を行ってきた。3年間における研究の具体的な到達目標として、(1) 保健所の健康診断やフォローアップ健診で用いる実践的なスクリーニング法、行動評価法の開発。(2) 保健師、保育士への教育研修システムの開発。(3) 保育所における障害児と周囲の子ども達への指導法の開発。の3点を設定した。

神戸市東部（灘区）に平成17年に開始した発達支援モデル教室（家族支援教室「ぽっとらっく」、個別支援教室「ほっと」）を、平成18年、平成19年度と継続して運営してきた。一方、平成19年度には神戸市と協力して西部（須磨区）にも新たな教室を開設し、システムの普遍性について検証を行った。また、分担研究者、協力研究者とともに(1) 公立保育所における「発達が気になる子ども」の実態調査。(2) 17年度に試作した行動観察用DVDの改良（音声説明を加えた再編集、異常行動に関する解説の追加）。(3) 発達支援教室に対する評価とインターネットを用いた運営法の標準化。(4) 2-4歳児を対象に実施した多職種によるグループ行動観察の最終評価と事例検討。(5) 自治体と連携した乳幼児健診問診票、「サポートブックの作り方、使い方ガイド」の作成を兵

庫県、神戸市と協力して行なった。また、通常学校に在籍し、行動・学習上の問題を相談に「A市学びの支援センター」を訪れた児童・生徒を対象に、1歳6ヶ月、3歳児健診での通過率を検討した。

B. 方法

1. 総合的研究

(1) 研究班会議の開催

班員会議を9月、10月、1月に3回開催し、全体の研究の統合性を確認した。また、これらの会議には、兵庫県、神戸市の母子保健並びに健康福祉事業担当者、発達支援教室の指導者、地域病院発達外来担当医が研究協力者として参加して、モデル事業の効果、実際の運営に関する問題点について討議した。（参考資料）

(2) 公開シンポジウムの開催及び啓発事業

平成19年度までの研究成果の紹介と今後の地域での実践応用を目的に平成20年1月26日に公開シンポジウムを開催し、保健師、保育士180名が参加した。さらに、第2回小児神経学会「プライマリケア医のための子どもの心の診療セミナー」（平成20年2月10日、神戸市で開催）、ハイリスク児フォローアップ研究会、恩賜財団母子愛育会公開シンポジウムなど、計27回の講演、シンポジウムで研究成果を紹介した。これらの事業の概要についてはホームページ上で紹介している。

(3) モデル事業の継続と拡大

神戸市、神戸大学の協力の下に、神戸市灘区に発達支援教室「ぽっとらっく」、個別支援教室「ほっと」を平成17年9月にオープンし、実践的な保育士、保健師への教育・研修事業を実施してきた。これらの教室での活

動が高く評価され、神戸市の支援を受けて平成19年9月には神戸市西部地区にも新たな発達支援教室を開設した。一方、姫路市では3歳児健診で要観察とされた児や保育所で保育士が「気になる」と判断した子どもたちを対象に、多職種者によるグループ行動観察を実施し、継続事例の検討も含めてその最終評価結果をまとめた。

(4) 地域自治体における事業との整合性に関する検討

平成19年度も地域自治体との連携活動を積極的に行ってきた。1) 平成19年度に兵庫県西宮市が改訂を計画している乳幼児健康審査質問票の監修を高田が行った。2) 平成19年度に改訂を計画している神戸市健診マニュアル作成に高田が委員として参加し、本研究班の成果を活用して問診票を作成した。

(参考資料2)

3) 神戸市における「発達障害児(者)支援体制整備検討委員会」に高田が委員として参加し、市の支援体制事業の整備に加わってきた。4) 三木市の公立保育園巡回指導事業に高田が加わり継続的な助言を行ってきた。また、平成19年に開設された神戸市発達障害支援ネットワークと協力して、地域における支援グループのネットワークづくりに関るとともに、家族が子どもに関する情報を自己管理する「サポートブックの作り方・使い方ガイド」を制作した。

2. 各分担研究者における研究

(1) 保健師・保育士を対象としたニーズ調査及び公開研修会の評価 (松田担当)

保健師の発達障害児への関わりの実情とニーズについて神戸市保健センター並びに兵庫県下の保健師を対象にアンケート調査

を実施してきたが、家族から聞き取った要望を参考にして第3回目の公開研修会を企画、開催した。これらの研修会参加者を対象にアンケート調査を行い、研修内容に関する理解度について調査した。

(2) 1歳6ヵ月健診にて要観察とされた児への行動観察法の確立 (石岡担当)

平成17年度に行動観察DVDを試作し、18年度に実際の乳幼児健診を受け持つ保健師へアンケート調査を行い、改善点を明らかにしてきた。平成19年度には、これらの意見をもとにDVDを編集しなおし、音声による解説を加えるなど大幅に修正した。また、神戸市内の公立保育所77園(子どもの総数1,044人)に勤める保育士を対象に「発達が気になる子ども」がどれくらい存在するかに関して実態調査を行った。

(3) 保健センターにおける多職種者によるグループ観察 (小寺澤班員担当)

姫路市の保健センターにおいて3歳児健診で要観察とされた児や保育所で保育士が「気になる」と判断した子どもたちを対象に、保健師、臨床心理士、作業療法士、小児科医による行動観察を行い、その評価をおこなってきた。これらの子どもたちの中から継続的な指導が必要であった事例について抽出し、多機関が連携することの重要性を指摘した。

(4) 保健師、保育士への教育研修システムの開発—<保護者教育と統合した新しい発達支援教室の導入>・<サポートブックの作り方・使い方ガイド>の作成— (高田担当)

神戸市、神戸大学との協力により、新たな教育研修システムの形態として発達支援教室「ぼっとらっく」を開き、モデル研修事業を行ってきた。平成19年度には、新たに神戸市西部に「スマイルぼっとらっく」を開設

し、システムの普遍化を目指した。本教室では、須磨区と協力して健康診断での要観察児を発達支援教室「スマイルぽっとらっく」で受け入れるなど乳幼児健診システムとのネットワークを強化した。また、「発達支援教室運営の手引」を編集し、このような教室が全国で行えるようにシステムの普遍化を目指した。また、<サポートブックの作り方・使い方ガイド>の作成を行った。

(5) 発達障害児をもつ家族の思いや家族発達についての理解に関する研究（佐藤担当）

19年度の研究では、臨床心理士が担うことになる二つの役割に焦点をあてている。すなわち、心理士の行なうプレイセラピーと、保護者を対象にした心理教育的面接をとりあげ、発達障害児を対象にしたプレイセラピーの意義やセラピストの役割について検討した。

C. 結果

1. 総合的研究

(1) 地方自治体との協力（研究モデル事業の実施）

地方自治体における発達支援事業との整合性を検討する中で、研究事業と連携していくつかの支援プログラムを開始した。

- 1) 19年4月より神戸市西部（須磨区）に発達支援教室を神戸市のモデル事業として開始した。本研究班が運営しているモデル教室で開発したソフトを取り入れ、須磨区の乳幼児健診とリンクさせた家族支援を中心とした教室を実施している。実施場所として、旧神戸市立大黒小学校跡地にある「スマイルプラザ大黒」を使用した。
- 2) 神戸市など地域自治体で作成する乳幼児健診問診票に研究事業の成果を取り入れス

クリーニング法の強化をめざした。健診事業の中で継続的にデータを積み重ねていく予定である。

3) 神戸市は厚生労働省発達障害者支援体制整備事業として私たちの発達支援教室モデルを取り入れた提案を行い採択された。神戸市職員がモデル事業に直接参加しており、より実践性の高い行動観察法、研修法の開発に協力している。

4) スクリーニング用の1歳6ヵ月健診問診票を神戸市と協力して作成した。平成20年度より、この問診票を用いた乳幼児健康診査を実施する。要観察児に対しては、保護者の同意の下に行動評価を実施し、必要に応じて発達支援教室での支援プログラムへと導く予定である。

図1にこれらの事業の相互枠組みを提示した。

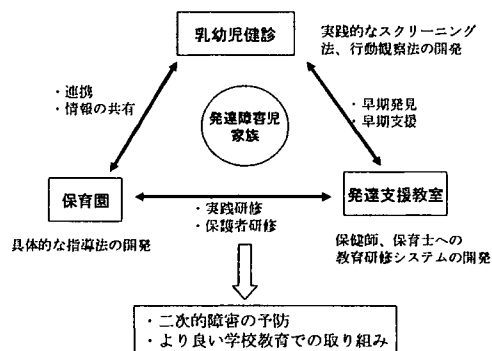


図1 発達障害児への早期発見・対応システムの開発

(2) 公開シンポジウムについて

1月26日に神戸市で実施した第3回公開シンポジウムには、兵庫県下の保健師・保育士を中心に180名が参加して活発な討論が行われた。シンポジウムを通じて得られた教育成果に関しては概ね肯定的であったが、今後も改善を続けていく予定である。

2. 各分担研究者における研究

(1)保健師を対象とした実態とニーズ調査 (松田担当)

松田らは、保健師、保育士を対象に、平成20年1月26日に「発達障害児への具体手見な取り組み」をテーマに研修会を開催した、公開研修会終了後にアンケート調査を行い以下の結果を得た。(有効回答：保健師64名、保育士・幼稚園教諭47名)

研修内容は以下の5テーマであった。

1. 高田哲. 発達障害児とその家族のための支援教室運営とその課題
—神戸市(灘区、須磨区)での家族支援モデル教室の経験を通して—
2. 小寺澤敬子. 支援導入に時間を要した2症例を通して支援と連携を考える
3. 石岡由紀. 幼児期における発達障害の支援の実際
4. 山根弘子. 発達障害児の療育の実際
5. 橋本美恵. 発達障害児と保護者へのノートブックの活用

これらの研修テーマに対するアンケート結果は下記のとおりであった。

- 1) 「発達障害児とその家族のための支援教室運営とその課題について」は「よくわかった(大変よくわかった。まあまあよくわかった)」が保健師80%、保育士・幼稚園教諭59%であった。
- 2) 「幼児期の発達障害児への関わり方、支援の実際」は「よくわかった」が保健師79%、保育士・幼稚園教諭49%であった。
- 3) 「発達障害児の療育の実際」は「よくわかった」が保健師76%、保育士・幼稚園教諭47%であった。
- 4) 「発達障害児とその保護者へのサポートブックの活用」は「活用したい」が保健師88%、保育士・幼稚園教諭57%であった。

5) 全体として保健師に比べ、保育士の評価が低く、今後の検討課題として残った。

6) 発達障害児と保護者に対するときにも最も必要な支援スキルとしては「家族への支援スキル」があげられた。

(2) 1歳6ヵ月健診にて要観察とされた児への行動観察法の確立(石岡担当)

石岡らは、Baron-Cohenの了解の下にCHAT23の日本語バージョンを作成し(翻訳、逆翻訳にて確認)、さらに行動観察の手順と注意点を簡潔にまとめた保健師用の研修DVDを作成してきた。平成19年度にはこれまでに試作してきたDVDに対する現場の保健師、保育士などの意見をもとに大幅な改訂を加えた。その結果、音声解説の伴った行動観察(第1部)、自閉性障害のある子どもの母親が、1歳半から2歳くらいの様子を振り返ったチェックリスト解説(第2部)からなる改定版DVDが完成した。

また、神戸市内の公立保育所77園(園児数千人)に勤める保育士919人を対象に「発達が気になる子ども」がどれくらい存在するかに関して実態調査を行った。保育師は、通常保育の子どもたちの9.8%に発達上問題をもつと感じていた。これらの割合は、3歳児12.4%、4歳児9.4%、5歳児8.4%と年齢とともに減少していた。一方、気になる行動上の問題としては、「相手の気持ちを感じることが苦手である」が最も高頻度に挙げられていた。

(3) 保健センターにおける多職種者によるグループ行動観察(小寺澤担当)

分担研究者の小寺澤は、3歳児健診で要観察とされた児や保育所で保育士が「気になる」と判断した子どもたちを対象に多職

種によるグループ行動観察を行なってきた。今年度は、保健所と専門機関の連携により療育が継続された2症例の分析を通じて、障害に気付かれても療育の流れののって行けない親子の存在を紹介した。早期発見が一人歩きしないために、支援者達が連携をとりあっていくことの重要性を改めて指摘した。

(4) 保健師、保育士への教育研修システムの開発 (高田担当)

19年度には、神戸市灘区に設けた家族支援モデル教室「灘ぼっとらっく」を12回開催した。保護者の参加人数は、毎回15-25人(のべ182人)、保育士、保健師及びこれらの専門職をめざす学生、大学院生などの参加は25-37人(のべ312人)であった。

子どもプログラムの対象となった児は2歳から5歳で、多くは医療施設等で広汎性発達障害の診断を受けていたが、未診断の児も少数含まれていた。本プログラムでは臨床心理士、保健師、作業療法士などの専門職者として将来働くことを希望する学生が1:1で子どもの保育を担当した。学生4-5名に対して、大学教員、通園施設の保育士、作業療法士など1名がインストラクターとして指導した。

講習会プログラムでは、12回を1クールとし、一方的な講義にならないように、グループ討議、共同作業、自由討論を組み合わせて、合計2時間のプログラムとした。12回の講習を終えた家族は、教室運営スタッフとして、新加入の家族に自分たちの経験を伝える役割を担うようにした。

平成19年度に新たに設立した「スマイルぼっとらっく」では、須磨区と協力して、まだ

診断が確定されていない要観察児を半数受け入れ、乳幼児健診システムとの連携を強化した。また、ボランティア(支援者)として高校生や地域の子育て支援グループメンバーを加え、支援者養成の新たな試みを開始した。これらのモデル教室の運営経験をもとに「発達支援教室運営の手引」を作成し、全国どの地域でも教室運営が可能となることを目指した。

さらに、「灘ぼっとらっく」、「スマイルぼっとらっく」とともに専用のホームページを設け、ホームページを通じて、発達支援教室の概要を示すとともに、学習会の案内、講習会・保育プログラム申し込み、ボランティア登録、必要書類のダウンロードなどができるようにした。また、講習会プログラムをDVDで記録し、希望者が閲覧できるようにした。

個別支援モデル教室「ほっと」も灘、須磨両地区で実施しており、4名ずつ計8名に対し、TEACCHモデルによるセッションを前、後期、各々15回~17回行った。各回のセッションは2名ずつで50分間、2交代で4名を指導した。さらに、各期5回ずつ計10回のペアレントトレーニングを実施した。ペアレントトレーニングには1年間で保護者144名、支援者142名計286名が加わった。

セッション前後で評価を比べてみると、15回のセッション終了後では、「課題に興味をもち集中して取り組むようになった。」、「離席もほとんどなく、落ち着いて過ごせるようになった。」、「カラーマッチングや仕分け課題ができるようになった」、「型はめ時に感覚遊びをやめて、形を見比べてはめようとする」など、認知力の向上について

多くの肯定的評価が得られた。

一方、研究協力者の山口は、通常学級に在籍し、特別な支援を要する児童・生徒 285 人を対象に調査をおこなったところ、202 人(67%)が広汎性発達障害、精神遅滞(境界域を含む)であった。全体での乳幼児健診での異常指摘率は、1歳6カ月健診 %、3歳児健診 %であったが、自閉性障害児では3歳児健診で半数近くが異常を指摘されていた。フォローアップが十分なされずに、学童期になって問題行動に初めて気づかれる例も多く、幼児期からの連続した支援の必要性が改めて認識された。

多数の専門職員、機関間でのネットワークを作るためには、より良い情報伝達手段の確立が必要である。兵庫県は、橋本らを中心に保健所において「サポートブック勉強会」を行ってきており、その有用性が知られている。今回の研究では、神戸市とも協力して「サポートブックの作り方、使い方ガイド」を作成した。このガイドは保健師や保育士が家族に説明するときの教育ツールとしても役立つと考えられた。

(5) 発達障害児をもつ家族の思いや家族発達についての理解に関する研究(佐藤担当)

佐藤は、特に問題解決的介入として心理士が担うことになる役割に焦点をあてて研究をおこなった。心理士の行なうプレイセラピーと、保護者を対象にした心理教育的面接をとりあげ、発達障害児を対象にしたプレイセラピーの意義やセラピストの役割について検討した。保護者を対象にした面接に関しては、発達や日常的な育児に関する基礎知識を提供するにとどまることなく、保護者が子どもを心理的に受容していけるためにどのよ

うに支援していけばよいか、面接の場における支援のあり方について論述している。子どもの障害を個の問題として捉えるのではなく家族への対応・支援という視点をもつ必要があると結論づけた。

D. 考察

平成 19 年度は、発達支援モデル教室事業を継続・発展させながら、できる限り具体的で普遍的なモデルシステムを構築できるように努力した。

発達障害を早期に発見することためには、1歳6ヶ月、3歳の乳幼児健診をいかに活用するかが重要である。私たちは、スクリーニングとしての問診票の意義を重視し、広汎性発達障害に焦点を絞った問診項目を追加した。この問診票は 20 年度より神戸市で使用することになっており、有用性の検証が望まれる。また、これらの健康診断で要観察とされた子どもを対象とした改訂版行動観察マニュアル DVD を完成した。この DVD は修正を加えたことによって、保健師・保育士の教育研修用教材としてより実用的になったと考えている。

私たちが乳幼児健診での問診項目を広汎性発達障害に焦点を絞ったのは、私たちが行った通常学級に在籍する発達障害児を対象とした後方視的研究、姫路市での多職種による行動観察資料に基づいている。学習障害や ADHD では健診年齢で異常を指摘されている割合は極めて低く、障害の性質からもこの年齢でのチェックには無理があると考えられた。一方、高機能広汎性発達障害児(とりわけ自閉性障害児)では、乳幼児健診で半数近くが異常を指摘されていたが、学齢年齢まで十分に認識して

いない親が多かった。これは、健診後の支援体制が不十分であるためと推測された。早期発見プログラムの実施と同時に家族支援、家族教育のプログラムを用意することの重要性が確認された。

姫路市では、医師、保健師、保育士、作業療法士、臨床心理士、言語聴覚士が、子どもたちのグループ活動の様子を同時に観察して評価している。2-4歳を中心とした年齢では、広範性発達障害児と精神遅滞児が観察例のほとんどを占めていた。評価する内容としては、1) 社会性（保護者との関係、大人との関係、子どもとの関係）、2) コミュニケーション（やりとり、表出手段、理解の手がかり、コミュニケーションレベル）、3) イマジネーション（行動特徴、問題行動、興味）、4) 感覚の特徴、運動（巧緻操作、粗大運動）、5) 活動性（衝動性、多動性、不注意）、6) 遊び（遊びの段階、好きな玩具と扱い方）、7) その他気づいた点について、の7点をとりあげ、それぞれの立場から評価を行った。これらを総合して診断し、保護者のニーズと子どもに合わせた療育プログラムを作成することが大切である。

保育所においては、障害児保育などを通じて発達障害をもつ子どもへの対応を求められる機会が急速に増加している。また、集団生活の中で、初めて注意欠陥・多動障害やアスペルガー障害の存在に気づくこともある。保育士が「気になる」と感じている子どもの割合は9.8%にも上った。しかし、年齢とともに「気になる子ども」の割合は減少しており、子どもの発達に伴う変化をいかに受け止めていくかが大きな課題と考えられた。

私たちが、新しく設けた発達障害支援モデル教室は、家族支援とともに保健師、保育士への研修、質の高い支援者養成にも活用され、高い評価を受けた。19年度には、神戸市と協力して新たに教室を開設したが、これらの経験を下に運営方法を普遍化するために「発達障害支援教室運営マニュアル」を作成した。

多くの発達障害児は、個別の支援を必要としており、マンパワーが不可欠である。医療関係者などの専門職者だけで対応するのは不可能である。学生に対する臨床教育、自助グループの育成やボランティア教育にも教室を活用していく必要がある。また、私たちが設けた個別支援教室「ほっと」のような個別支援プログラムへの参加は多くの家族が望んでいる。今後、身近な地域で受けることのできるように指導者の養成も大切である。このような教室の評価のためには、全国的な規模での調査が必要であり、今後より大規模な継続研究が必要と考えられた。

早期支援には、多くの専門職、専門機関の間のネットワークが必要であり、そのための情報伝達手段としてサポートブックが有用と考えられている。神戸市と協力して、作成、使い方ガイドを制作しており、保健、福祉、教育機関が連携して対応することができるようにと考えている。

E. 結論

- 1) 乳幼児健診で異常が指摘される発達障害の多くは自閉症で、この年齢で、LD、ADHDなどの障害を捉えることは困難と考えられた。
- 2) 1歳6ヵ月、3歳児乳幼児健康診断では、

精神遅滞、自閉症児を的確に発見し、家族が子どもの発達上の問題を受けいれることができるような支援・教育プログラムを準備することに重点を置くべきと考えられた。

3) 通常学級において特別な支援を要する学童、生徒の67%は広汎性発達障害児、軽度精神遅滞及び境界知能例であり、早期からの診断、支援プログラムによって、教育関係者への負担は軽減されると思われた。

4) 行動観察用マニュアルは、短時間で実施でき、フォローアップ健診での実践が可能であった。また保健師・保育士の研修教材としても役立つと考えられる。この観察法の臨床的有用性については今後の臨床評価が必要である。

5) 3歳時健診や保育園で気になる行動が指摘された児を対象とした多職種による子ども達のグループ行動観察は診断確定とともに家族の障害受容につながった。しかし、通常の療育に乗りにくい子どものためには時間をかけた支援機関同士の連携が重要である。

6) 発達支援モデル教室は、子どもたちと家族だけではなく、専門職教育、支援者養成にも有用であった。支援教室運営マニュアルを作成したが、地域の実情に合わせてカスタマイズして利用すれば良いと思われた。

7) 多くの専門職、専門機関間の情報伝達にはサポートブックが有用と考えられた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

【論文発表】

- 1) 佐藤眞子 家族関係と子どもの発達
小石寛文編著 子どもの発達と心理 八千代出版 東京
- 2) 高田哲 就学について. ハイリスク児のフォローアップマニュアル 三科淳、河野由美編 メジカルビュー社. 東京. 115-119 2007
- 3) 高田哲 教育(保育園、幼稚園、小学校)との連携 ハイリスク児のフォローアップマニュアル 三科淳、河野由美編 メジカルビュー社. 東京. 185-189 2007
- 4). Taro Ohtoshi, Toshiaki Muraki, Satoshi Takada. An investigation of age-related developmental differences of button ability. *Pediatric International* (印刷中)
- 5) 高田哲 軽度発達障害児によくみられる症状 小児内科(39) 171-173, 2007
- 6) 小寺澤敬子, 中野加奈子, 宮田広善. 就学前軽度発達障害児への評価と支援について. *LD研究* 16(3): 293-297, 2007
- 7) 石岡由紀, 谷田沙和, 山根千依. 発達に遅れのある子どもとその家族支援に関する研究Ⅱ 神戸親和女子大学教育研究センター紀要 第3 2007
- 8) 高田哲 周産期医療の成果と評価: 周産期医療に携わる者は総合的にどう評価しているか. フォローアップ担当医 周産期医学(38) 65-68, 2008

【学会発表】

(学会の特別講演・シンポジウム)

- 1) Takada S. Experience on interdisciplinary cooperation network for profound handicapped children's care in Kobe. Chinese association of Early Intervention Programs for children with Developmental

Disability. September 29-30th (Taipei) Taiwan
2007

2) 高田哲 発達障害の早期診断と支援 第
18回ハイリスク児フォローアップ研究会
講演 2007年5月20日 東京

3) 高田哲 障害のある子どもと家族への支
援 -神戸大学の地域連携事業として- 滋
賀県小児保健学会 10月6日 滋賀県
守山市

4) 高田哲 重症児と医療との関わり 全国
重症児通園事業研究会 2007年10月9-10日
神戸

5) 高田哲. 軽度発達障害について
兵庫県小児科医会 第 48 回小児医学講
座 2007年12月8日 神戸
(一般公演)

6) 高田哲、松田宣子. 発達障害児の早期
支援・支援に関する保健師の意識と役割.
第49回日本小児神経学会総会 2007年 7
月5-7日 大阪

7) 山口志麻、高田哲. 通常学級に所属する
特別な支援を要する子どもの実態と乳幼児
健診. 第49回日本小児神経学会総会 2007
年 7月5-7日 大阪

8) 山口志麻、高田哲. 通常学級に所属する
特別な支援を要する子どもの実態と乳幼児
健診. 第2報. 第54回日本小児保健学会
2007年9月20-22日 前橋

9) 高田哲. 松田宣子、山根弘子、他. 家族
教育と専門職教育を同時に行う発達支援モ
デル教室の運営 第54回日本小児保健学会
2007年9月20-22日 前橋

10) 松田宣子、坂間伊津美、小門美由紀、
高田哲. 育児グループの効果に関する研究
. 第54回日本小児保健学会 2007年9月20-
2日 前橋

11) 小寺澤敬子、中野加奈子、宮田広善.
広汎性発達障害を合併する脳性麻痺児の早
期兆候について. 第49回日本小児神経学会
総会 2007年 7月5-7日 大阪

12) 小寺澤敬子、中野加奈子、宮田広善.
不均衡転座をもつ子どもの両親へ継続した
遺伝相談を行った一例. 第237回日本小児
科学会兵庫県地方会 2007年9月 姫路

13) 小寺澤敬子、中野加奈子、宮田広善.
学校との連携が有効であったアスペルガー
障害の2例. 第48回日本児童青年精神医学
会総会 2007年11月1日

【研究会・研修会などにおける講演】

1) 高田哲. 発達障害の早期診断と支援 沼
津市学校保健研究会 特別講演 2007年5月
10日 静岡県沼津

2) 高田哲. 特別な支援を必要とする子ども
たちの子育てをどう支援するか 大学コ
ンソーシアムひょうご 2007年6月17日
神戸

3) 高田哲 発達障害の理解 兵庫県音楽療
法士認定審査講習会 2007年6月22日 兵
庫県主催 神戸

4) 高田哲. 気になる子ども 三木市教育
センター研修会 三木市教育委員会主催
三木市 2007年9月15日

5) 高田哲. 発達支援ネットワークの構築に
ついて 大阪市家庭相談員研修会 2007年
10月19日 大阪

6) 高田哲. 発達障害の診断をめぐって一家
族支援の立場から- 神戸市発達障害支援
ネットワーク 講演会 神戸市発達障害支
援ネットワーク主催 2007年11月3日
神戸

7) 高田哲. 発達障害の診断と支援. ヤンセ

- ンファーマ株式会社社内研修会 2007年11月26日 神戸
- 8) 高田哲. 重症児と医療との関わり. 医療的ケア講座 NPO法人ほっとぽっと主催 2007年12月9日 神戸
- 9) 高田哲 障害のある子どもやハイリスク児家族への発達支援—大学と自治体との連携—赤ちゃん成育ネットワーク第3回研究会 2008年1月13日 東京
- 10) 高田哲. 発達障害児と家族のための支援教室運営とその課題 厚生労働科学研究補助金事業(子ども家庭総合研究)公開シンポジウム 神戸
- 11) 高田哲. 保健師・保育士による発達障害児の早期発見・対応システムの開発 厚生労働省雇用均等・児童家庭局 母子保健課勉強会 2008年1月30日 東京
- 12) 高田哲 医療との関係 障害者相談支援事業全国連絡協議会 障害者相談支援事業全国連絡協議会 2008年1月31日 小倉
- 13) 高田哲 発達障害のある子の家族、支援者へのアドバイスの仕方 日本小児神経学界 第2回プライマリケア医のための子どもの心の診療セミナー 2008年2月10日 神戸市
- 14) 高田哲 発達に遅れを持つ子どもたちへの支援 第4回ダウン症療育研究会 2008年2月23日 尼崎
- 15) 高田哲. 保健師・保育士による発達障害児の早期発見・対応システムの開発 恩賜財団母子愛育会公開シンポジウム 2008年3月7日
- 16) 高田哲. 医療ケアを必要とする子の在宅支援体制 神戸市の地域連携システムの取り組み 医療ケアを必要とする児の在宅支援体制あり方検討会 2008年3月14日 滋賀県 石山
- 17) 佐藤真子 幼児の「こころ」をはぐくむ子育て 芦屋市家庭教育推進講座 2007年9月20日 芦屋
- 18) 佐藤真子 子育ての何を支援するのか 甲南女子大学「子ども学」講演会 2007年10月4日 神戸
- 19) 佐藤真子 思春期の子どもを楽しむ 神戸市垂水区子育て講演会 2007年10月30日 神戸
- 20) 佐藤真子 幼児の「こころ」をはぐくむ子育て 芦屋市家庭教育推進講座 2007年11月6日 芦屋
- 21) 佐藤真子 思春期のこどもと家族 神戸大学はこべらの会講演会 2007年11月16日 神戸
- 22) 橋本美恵 子ども達と関わる上で大切にしたいこと 加古川市ファミリーサポートセンター 2007年6月7日 加古川
- 23) 橋本美恵 発達障害を疑う子どもの保健指導及びフォローにあたって 神戸市発達障害ネットワーク推進室保健師対象研修会 2007年10月19日 神戸
- 24) 橋本美恵 発達にでこぼこのある子の理解 播磨町NPO法人アエソン講演会 2007年10月26日 播磨町
- 25) 橋本美恵 障害のある子どもの理解と支援 託児サポーター養成講座 2007年11月9日 稲美町
- 26) 橋本美恵 「発達障害の特徴をもつ子どもへの関わり方」福崎町保健センター 2008年2月18日 福崎町
- 27) 石岡由紀 発達障害児を支援する保健師・保育士への研修会 2008年1月26日

【その他の成果物の出版】

- 1) 高田哲. 発達障害児早期発見 行動観察
マニュアル (改訂版) DVD 1 枚、解説文
総ページ数：10 ページ 2007
- 2) 神戸市サポートブック作成検討委員会
サポートブックの作り方・使い方ガイド (幼
児・低学年用) 小冊子. 総ページ数：17
ページ 2007
- 3) 高田哲. 発達支援教室運営の手引き 小
冊子. 総ページ数：19 ページ 2007

H. 知的財産の出願・登録状況

該当なし

4か月児健康診査問診票（最終案）

何か相談したいことや心配なことがありますか。 （よく泣く、手がかかる、配偶者の協力が無い等） （便 回/ 日）	出生順位第□□子 今までに病気で受診したことがありますか。 はい いいえ
---	---

1	□□週で生まれた。 生まれた時の体重□□□□g・身長 □□.□cm	出産場所()
2	妊娠中の異常 ○なし ○妊娠高血圧症候群 ○貧血 ○切迫流早産 ○その他() <small>(妊娠中毒症)</small>	
3	分娩時の異常 ○なし ○帝王切開 ○吸引分娩 ○臍帯繕絡 ○その他()	
4	出生直後の異常 ○なし ○仮死 ○強い黄疸・光線療法・交換輸血 ○けいれん ○保育器使用 ○酸素使用 ○その他()	
5	1か月児健診を受診しましたか。 ○はい(□□月□□日:体重□□□□g)	○いいえ
6	あやすとよく笑いますか。 ○はい(□か月から)	○いいえ
7	アーアー、ウーウーなど声を出しますか。 ○はい(□か月から)	○いいえ
8	物を見て上下左右に目で追いますか。 ○はい(□か月から)	○いいえ
9	腹ばいにすると腕で体を支え頭を持ち上げますか。 ○はい(□か月から)	○いいえ
10	音がする方向へ顔を向けますか。 ○はい(□か月から)	○いいえ
11	ガラガラを握って動かしますか。 ○はい(□か月から)	○いいえ
12	口の中のことで気になることがありますか。 ○いいえ	○はい(具体的に)
13	今までに異常があるとされたことがありますか。 ○いいえ	○はい(具体的に)

1	赤ちゃんとの暮らしになれましたか。 ○はい ○いいえ	
2	ぐずったり、機嫌が悪かったりすることは多いですか。 ○いいえ ○はい	
3	昼間は主に誰がこどもをみていますか。 ○父 ○母 ○祖父母 ○保育所・託児所(施設名:) いつから:) ○親類 ○ベビーシッター ○その他(具体的に:)	
4	配偶者も子育てしていますか。 ○よくする ○ときどきする ○ほとんどしない ○全くしない	
5	配偶者以外で、子育てに協力してくれる人はいますか。(複数選択可) ○義父母 ○実父母 ○友人 ○兄弟・姉妹 ○近所の人 ○その他(具体的に:) ○いない	
6	子育ての相談を誰にしていますか。(複数選択可) ○配偶者 ○義父母 ○実父母 ○友人 ○兄弟・姉妹 ○近所の人 ○区役所 ○医療機関 ○保育所・託児所 ○育児書 ○その他 ○いない	
7	子育て仲間がいますか。 ○いない ○いる(具体的に:)	
8	お母さんは、こどもをだっこしたり、あやしたりしていますか。 ○よくしている ○ときどきしている ○あまりしていない ○全くしない	
9	お父さんは、こどもをだっこしたり、あやしたりしていますか。 ○よくしている ○ときどきしている ○あまりしていない ○全くしない	
10	子育てについて、あなたの気持ちをあらわしているのはどれですか。 ○ ○ ○ ○ ○	
11	最近、転居したり、家族構成に変化がありましたか。 ○いいえ ○はい(具体的に:)	

ここには、フェイススケールのイラスト

1	お母さんは、たばこを吸っていますか。 ○吸わない ○こどもの前では吸わない ○こどもの前で吸う	
2	お父さんは、たばこを吸っていますか。 ○吸わない ○こどもの前では吸わない ○こどもの前で吸う	
3	他の家族は、たばこを吸っていますか。(誰:) ○吸わない ○こどもの前では吸わない ○こどもの前で吸う	

1	授乳に関する事で気になる事はありますか。 ○いいえ ○はい(具体的に:)	
2	母乳やミルクの与え方について。 ○母乳のみ(□□回/日) ○ミルクのみ(□□□ml/回 × □□回/日) ○混合(母乳 □□回/日+ミルク□□□ml/回 × □□回/日)	
3	母乳やミルク以外に与えているものがありますか。 ○ 湯ざまし・お茶 ○ その他(具体的に:) ○なし	

赤字 文言変更 緑字 新規項目 □ 数字記入欄

1歳6か月児健康診査問診票（最終案）

出生順位第□□子

何か相談したいことや心配なことがありますか。
（育てにくい、自分の時間がない、視線が合わない等）

今までに受診したことがある病気。
麻疹 風疹 水痘 百日咳 肺炎
おたふくかぜ 重い下痢 先天性股関節脱臼
外科手術()
 けいれん 有 平成□□年□□月
 その時の発熱 有 無
その他()

(便 回/ 日)

- | | | | |
|----|---|------------------------------|------------------------------|
| 1 | ひとりで安定して歩けますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 2 | 手をひくと階段をあがれますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 3 | 小さいものを指先でつまみますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 4 | 積み木を積めますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 5 | なぐり書きをしますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 6 | 名前を呼ぶと、ふり向きますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 7 | 「ゴミばいしてきて」「おもちゃ持ってきて」などの簡単なお手伝いができますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 8 | 保護者が外に行く用意をすると自分も用意をしますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 9 | ワンワン等、意味のある言葉を話しますか。
「はい」の場合、具体的には() | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 10 | 絵本をみて知っているものを指さしますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 11 | 「ちょうだい」と言って手を出したら渡してくれますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 12 | 他のこどもに関心を示しますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 13 | 人と遊ぶよりは、1人で遊ぶ方が好きですか。 | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| 14 | 何をして遊ぶのが好きですか。(具体的に:) | | |
| 15 | 相手をまねてバイバイをしますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 16 | 保護者の目の届く範囲で遊びますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| 17 | 落ち着かない、不注意でよく転ぶ、平気で高いところに登るなど行動面で何か気がかりなことはありますか。
<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい(具体的に:) | | |
| 18 | 目つきや目の動きのことで気になることがありますか。 | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |
| 19 | 耳のことや聞こえについて気になることがありますか。 | <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい |

- | | |
|----|--|
| 1 | 昼間は主に誰がこどもをみていますか。
<input type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母 <input type="checkbox"/> 祖父母 <input type="checkbox"/> 保育所・託児所(施設名:) いつから:)
<input type="checkbox"/> 親類 <input type="checkbox"/> ベビーシッター <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) |
| 2 | 配偶者も子育てをしていますか。 <input type="checkbox"/> よくする <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> ほとんどしない <input type="checkbox"/> 全くしない |
| 3 | 配偶者以外で、子育てに協力してくれる人はいますか。(複数選択可)
<input type="checkbox"/> 義父母 <input type="checkbox"/> 実父母 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 兄弟・姉妹 <input type="checkbox"/> 近所の人
<input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> いない |
| 4 | 子育ての相談を誰にしていますか。(複数選択可)
<input type="checkbox"/> 配偶者 <input type="checkbox"/> 義父母 <input type="checkbox"/> 実父母 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 兄弟・姉妹 <input type="checkbox"/> 近所の人 <input type="checkbox"/> 区役所
<input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 保育所・託児所 <input type="checkbox"/> 育児書 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> いない |
| 5 | 子育て仲間がいますか。 <input type="checkbox"/> いない <input type="checkbox"/> いる(具体的に:) |
| 6 | お子さんの遊び仲間がいますか。 <input type="checkbox"/> いない <input type="checkbox"/> いる |
| 7 | お母さんは、こどもと遊んでいますか。
<input type="checkbox"/> よく遊んでいる <input type="checkbox"/> ときどき遊んでいる <input type="checkbox"/> あまり遊んでいない <input type="checkbox"/> 全く遊んでいない |
| 8 | お父さんは、こどもと遊んでいますか。
<input type="checkbox"/> よく遊んでいる <input type="checkbox"/> ときどき遊んでいる <input type="checkbox"/> あまり遊んでいない <input type="checkbox"/> 全く遊んでいない |
| 9 | 子育てについて、あなたの気持ちをあらわしているのはどれですか。
<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> |
| 10 | 4か月児健診を受けてから転居したり、家族構成に変化がありましたか。 <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい(具体的に:) |

ここには、フェイススケールのイラスト5種類が入ります。

- 1 起きる時間は決まっていますか。
 7時まで 7時台 8時台 9時台 10時台 11時以降 決まっていない
- 2 夜寝る時間は決まっていますか。
 8時まで 8時台 9時台 10時台 11時台 12時以降 決まっていない
- 3 ほ乳びんを使っていますか。 いいえ はい (いつ: /中味:)
- 4 母乳を飲んでいますか。 いいえ はい(いつ:)
- 5 自分でコップで飲んだり、スプーンを使って食べようとしますか。 はい いいえ
- 6 食事で困っていることはありますか。(複数選択可)
 遊び食い 偏食する むら食い 食べるのに時間がかかる 食欲がない
 その他(具体的に:) 困っていることはない
- 7 よくかんで食べていますか。 はい いいえ いつまでも口の中にためている
- 8 食事は決まった時間に食べていますか。
 朝食は毎日食べていますか。
 はい いいえ はい(時頃) いいえ
- 9 おやつ時間は決まっていますか。
 回数は1日に何回くらいですか。
 はい いいえ 食べない
 1回 2回 3回以上
- 10 次のうちよく食べさせている菓子類は何ですか。(複数選択可)
 アイス チョコレート菓子 スナック菓子 あめ その他(具体的に:)
- 11 週1回以上利用しているものはどれですか。(複数選択可)
 外食・ファーストフード(ハンバーガー、ピザ、ファミリーレストラン、焼肉屋など)
 インスタント食品(カップ麺、カップスープなど) できあいのおかず(弁当、すし、サンドイッチ、総菜など)
 加工食品(ハム、ウインナー、冷凍食品、レトルト食品、漬物など) 利用しない
- 12 ほぼ毎日飲む飲み物はどれですか。(複数選択可) 牛乳またはミルク(1日ml) お茶、水
 ジュース(果汁、炭酸・乳酸菌・スポーツ飲料、野菜ジュース等):1日 ml/1日 回
- 13 主食(ごはん・パン・めんなど)・主菜(魚・肉・卵・とうふ等が主の料理)・副菜(おひたし・酢の物・野菜の煮物など)がそろった食事は1日何回ですか。 毎食 2回 1回 なし
- 14 こどもと一緒に食事をするのは楽しいですか。 はい 時には いいえ 一緒には食べない
- 15 毎日歯ブラシを持たせていますか。 はい 時々 いいえ
- 16 毎日寝る前に仕上げみがきをしていますか。 はい 時々 いいえ
- 17 家庭内にタバコを吸う人がいますか。 いいえ はい(具体的に:)

- 1 風邪の時に、ゼーゼーという事が多いですか。 いいえ はい
- 2 今までに医師から以下の病気といわれたことがありますか。
 アトピー性皮膚炎 いいえ 治療中 治療したことがある
 喘息 いいえ 治療中 治療したことがある
 喘息性気管支炎 いいえ 治療中 治療したことがある
 食物アレルギー(食品名:) いいえ 治療中 治療したことがある
- 3 お子さんの兄弟や両親にアレルギー性疾患(喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎等)の方がいますか。
 いいえ はい(誰:)(病名:)
- 4 アナフィラキシーショックと診断されたことはありますか。 いいえ はい

「アナフィラキシー・ショック」とは、アレルギー反応により、呼吸困難・気道がふさがれることによる酸素欠乏状態・血圧低下・意識消失・不整脈による心停止などをおこした状態です。

数字記入欄
 赤字 文言変更
 緑字 新規項目

3歳児健康診査問診票（最終案）

出生順位第□□子

<p>何か相談したいことや心配なことがありますか。 (育てにくい、自分の時間がない、視線が合わない等)</p> <p style="text-align: right;">(便 回/ 日)</p>	<p>今までに受診したことがある病気。</p> <p>○麻疹 ○風疹 ○水痘 ○百日咳 ○肺炎 ○おたふくかぜ ○重い下痢 ○先天性股関節脱臼 ○外科手術() ○治療を要する事故() けいれん ○有 平成□□年□□月 その時の発熱 ○有 ○無 ○その他()</p>
--	---

<p>1 両足とびができますか。</p> <p>2 ころばないで歩くことができますか。</p> <p>3 まるい形を書くことができますか。</p> <p>4 「大きい・小さい」の区別がつかますか。</p> <p>5 言葉の数がふえてきていますか。</p> <p>6 3語以上の簡単な文章がいえですか。</p> <p>7 会話でのやりとりができますか。</p> <p>8 遊び友達の名前がいえですか。</p> <p>9 ごっこ遊びをしますか。</p> <p>10 これまで人見知りをした時期がありましたか。</p> <p>11 道路に突然飛び出すような行動がありますか。</p> <p>12 落ち着かない、不注意でよく転ぶ、平気で高いところに登るなど行動面で何か気がかりなことはありますか。 ○いいえ ○はい(具体的には:)</p> <p>13 まわるもの・小さい物・水遊びなどに気をとられると、周囲の呼びかけに応じなかったり、他の人が目に入らなくなる事がありますか。 ○いいえ ○はい(具体的に:)</p> <p>14 手に触れるのを嫌ったり、特定の音に耳をふさぐなど、特に嫌う物がありますか。 ○いいえ ○はい(具体的に:)</p> <p>15 不器用だと思ふことがありますか。</p>	<p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○はい ○いいえ</p> <p>○いいえ ○はい</p> <p>○いいえ ○はい(具体的に:)</p> <p>○いいえ ○はい(具体的に:)</p> <p>○いいえ ○はい(具体的に:)</p>
---	---

<p>1 屋間は主に誰が子どもをみていますか。 ○父 ○母 ○祖父母 ○保育所・託児所・幼稚園(施設名:) ○親類 ○ベビーシッター ○その他(具体的に:)</p> <p>2 配偶者も子育てしていますか。 ○よくする ○ときどきする ○ほとんどしない ○全くしない</p> <p>3 配偶者以外で、子育てに協力してくれる人はいますか。(複数選択可) ○義父母 ○実父母 ○友人 ○兄弟・姉妹 ○近所の人 ○その他(具体的に:) ○いない</p> <p>4 子育ての相談を誰にしていますか。(複数選択可) ○配偶者 ○義父母 ○実父母 ○友人 ○兄弟・姉妹 ○近所の人 ○区役所 ○医療機関 ○保育所・幼稚園等 ○育児書 ○その他 ○いない</p> <p>5 子育て仲間がいますか。 ○いない ○いる(具体的に:)</p> <p>6 お子さんの遊び仲間がいますか。 ○いない ○いる</p> <p>7 お母さんは、子どもと遊んでいますか。 ○よく遊んでいる ○ときどき遊んでいる ○あまり遊んでいない ○全く遊んでいない</p> <p>8 お父さんは、子どもと遊んでいますか。 ○よく遊んでいる ○ときどき遊んでいる ○あまり遊んでいない ○全く遊んでいない</p> <p>9 子育てについて、あなたの気持ちをあらわしているのはどれですか。 ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>10 前回健診を受けてから転居したり、家族構成に変化がありましたか。 ○いいえ ○はい(具体的に:)</p>	<p>ここには、フェイス ケールのイラスト5 種類が入ります。</p>
--	---